

■■■ 「多文化共生」を考える研修会2018報告 ■■■

今年度も4日間にわたり「多文化共生」を考える研修会2018を開催しました。初日、2日目と定員を大幅に超える100名超の参加者を得、また3日目も台風の次の日でまだ交通事情が悪い状況での開催でしたが多くの方にご参加いただくことができました。

1日目は、台湾映画祭の帰りというお忙しい中、映画監督の行定勲氏のご登壇くださいました。お話の詳細は下記の報告に譲りますが、行定氏が昨年審査員を務められた第30回東京国際映画祭で作品賞に選ばれた、日本とミャンマーを舞台にした、ある在日ミャンマー人家族に起こった実話「僕の帰る場所」は非常に優れた作品とのことをご紹介いただいたので、ぜひ観てみようと思

いました。次にNHKディレクターの宣英理氏から、外国ルーツの子どもの番組の映像を流しながらご講演いただき、いまさらながら映像の力を感しました。

2日目は、外国にルーツを持つ子どもの教育をテーマに、文部科学省の近田由紀子氏（下記に報告あり）と同志社女子大学特任教授の藤原孝章氏からお話しいただきました。

3日目は、名城大学教授の近藤敦氏から、日本の多文化共生政策の10の課題とそのための対策について、愛知県労働組合総連合議長の樽松佐一氏からは、技能実習制度の概略と労働相談の具体的な事例、当面の課題についてお話しいただきました。

4日目は、立命館大学特任教授の文京洙氏から、在日コリアンの歴史と日本社会・外国人政策について、日本カナダ学会顧問の竹中豊氏からは、カナダケベックのインターカルチャリズムという方法についてお話しいただきました。

以下は、1日目、2日目のニュース係からの報告です。（志岐 良子）

研修テーマ【多様性と生きるために】が、8月20日に国際健康開発センター3階会議室で開かれ、下記の報告がされました。

1. 「少年時代の在日コリアンとの出会いが映画づくりにもたらすもの」講師：行定 勲（映画監督）

行定氏は1968年生まれ熊本県出身。2001年に映画『GO』で第25回日本アカデミー賞最優秀監督賞を始め数々の映画賞を総なめにした監督で、最近では舞台演出も手掛けています。『GO』は在日コリアンの高校生が偏見や差別を乗り越えていく内容で、金城一紀の同名小説（直木賞受賞）が原作となっています。行定氏は、小学生の頃の単純に好きであこがれでもあった在日コリアンの友達との交流とその後の彼の死に直面して、生きるというのはどういうことか、彼の考え・思いを知りたいとの強い意識がずっとあったといいます。その中で、『GO』の映画のオファーがあり、“境界線を消したい” “広い世界を見たい” という人間の物語、マイノリティーの叫びというものをその中で描いたということでした。

このようなことは、日本では摩擦として描かれていると捉えますが、世界では普遍なものとして捉えられています。なぜ戦争は起きるのか？なぜ人は憎しみ合うのか？まず、相手の気持ちを知り、どこでわかり合えるのか、自分がマイノリティーになってみることです。これからも当事者の考えに近い所で映画作りをしたい。又、我々の考えられない異次元の世界というものを受け入れていきたいと考えています、と語っていました。彼の今後の異次元の世界からの作品を注目していきたいです。

2. 「外国人の子どもと貧困～minami子ども教室を取材して～」講師：宣英理（NHKディレクター）

NHKの番組で紹介した大阪府中央区にある“Minami子ども教室”に通う外国にルーツを持つ小学生の女の子と中学生の男の子の2人の取材を通して、学習面・生活面の問題、それに向かっている彼/彼女らの葛藤、その周りの大人たちの取組みの紹介がありました。大阪府中央区には約8,000人の外国人住民が住んでおり、この教室には50人の小学生・中学生が来ており、学校とNPO、市民のオープンな協力で運営されています。そこで大切にしていることは、“夢を持つことの大切さを伝える”こと、“子どもたちの可能性を伸ばす”ことです。少しの大人の助けで子どもたちは大きく変わるものです。今後、子どもに必要なことは、子どもの居場所を作ること、人とのつながりを持てる雰囲気を作ること、活躍する場が持てるチャンスを作ること等です。（川淵 啓司）

3. 「CLD児にみられる発達の問題～子どもの困り感と支援のニーズ～」

講師：近田 由紀子（文部科学省初等中等教育局国際教育課外国人児童生徒等教育支援プロジェクトオフィサー）

文部科学省の「公立学校における日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」によると、その数は10年間で日本国籍児童生徒は2.5倍増、外国人児童生徒は1.5倍増となっています。それに伴い外国籍児童生徒の母語、日本国籍児童生徒の使用頻度の高い言語は多様化しています。日本語指導が必要な児童生徒のうち特別な指導を受けている割合は外国籍の者は76.9%、日本国籍の者は74.3%となっています。そのうち小中学校において「特別の教育課程:個別指導計画」で日本語指導を受けている割合はそれぞれ42.6%、38.8%となっています。

指導者・支援者から見た子どもの課題として文字の読み書きが困難、学習が定着しない、集中力が続かない、コミュニケーションがうまくとれない、落ち着きがない、登校を渋るなどがあげられます。外国人児童の学習や行動の困難に影響を与える要因は多様です。貧困など社会経済的な背景、言語文化的な背景、家庭・地域社会の教育力などがあります。そしてこれらの要因が複雑に絡み合っています。

支援者にできることは子どもの多様性:年齢、成育歴・発達特性・言語力、来日前の教科学習経験・基礎学力、家庭環境、言語文化的背景、社会経済的背景、社会心理的側面を理解し、子どもを取り巻く環境:地域コミュニティ、学校体制、指導者・支援者、サポートスタッフ等について理解し、具体的な支援を生み出すことです。

海外における先行研究によると、移民の子どもへの低学力問題や行動困難、特別支援教育の問題に対して適切なアセスメント法は確立していません。

日本においては2017年3月に公示された学習指導要領の改訂に「日本語の習得に困難のある児童生徒や不登校の児童生徒への教育課程」が明記されました。（石川 明子）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆研修会「音符を活用した漢字の学習会」

7月28日KFC教室スペースで「音符を活用した漢字の学習方法」と題して「漢字音符研究会」の石沢誠司先生による研修会が開催されました。日頃、KFCで日本語ボランティアをしているメンバーが集まりお話をうかがいました。外国人の日本語学習は、ひらがなの読み書きから始めて語彙、文法、会話を並行して学習していきます。そして滞在期間がある程度経過してから漢字学習を始められるのですが、学習者にとっても支援者にとってもこの漢字学習の進め方がとても難しいのです。

そこで石沢先生にお越しいただいたのですが、「漢字はものの形を簡単な線でかたどった絵文字から始まっているので、基本漢字は絵文字から説明すると分かりやすく効果がある、そして『漢字音符』を活用すると、読み方や意味、イメージがとらえやすい」ということでした。「音符」とは字体の中で発音を表す部分です。漢字の多くは「部首+音符」があり、部首は意味を表し、音符は発音を表わしていて、例えば「橋」という漢字なら、「木」が部首で「喬」が音符、発音は「きょう」。「江」と「紅」、「清」と「晴」、「陽」と「揚」、「距」と「拒」など音符部分を見ると漢字の読み方が予想できます。

また、漢字は人の身体の絵文字に由来するものが多いということで「人の姿の音符」も教えていただきました。

- 「人」は、立つ人を側面から見た形
- 「比」は、右向きの人が二人並んだ形
- 「北」は、二人が背を向けている形
- 「化」は、立っている人と逆さになった人の形
- 「大」は、両手を広げて立つ人「立」は、人がしっかりと地面に立つ形
- ・・・など。

音符は音だけでなく意味を表すことも多いそうです。

私は、研修会前にタイトルの「音符」という文字を見たときは、音楽の楽譜で使われる四分音符♪などを想像してしまい、「漢字学習でなぜ♪♪」と頭の中に「？」が飛び交いましたが、漢字の発音を表す部分も「音符」というと聞いて合点がきました。漢字は数が多いうえに一つの字に対して読み方も多い（生まれる、生きる、生活する、一生、誕生・・・）ため、学習者が漢字を嫌いにならないよう、楽しい学習方法はないかと考えていましたが、まず絵文字を使い、部首と同時に音符についても説明を加えると、よく似た漢字を次々に学習することができる、と学びました。この方法をうまく学習者さんに伝えられるよう、引き続き漢字学習に取り組んでいきたいと思えます。石沢先生ありがとうございました。

参考：石沢先生のご著書『音符順 常用漢字学習辞典』

また、ネットの検索サイトで「漢字音符」と入力し、隣に調べたい漢字1字を入れて検索すると音符が出てきます。簡単に調べられますので、みなさん是非活用されてはいかがでしょうか。
(岡本 道代)

■■■ KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆みんなのダイニングに参加して

5月からKFCみんなのダイニングにボランティアとして参加させていただいている小山瞳です。私は大学で多文化社会について学んでいて、外国にルーツを持つ方々を支援する活動がどのようなものか知るために参加しようと思いました。

ダイニングに通うようになってから3か月が経ち、今ではようやく慣れてきましたが、最初に来たときは緊張と不安でいっぱいでした。どんな子どもたちがいるのか、初めて会った子どもたちと仲良くなれるのか、自分に手伝えることがあるのか、など心配事が尽きなかったのを覚えています。でも、そんな心配をよそに子どもたちはとても元気で無邪気で、私はそのパワフルさに圧倒されながらも、いつもエネルギーをもらっています。新しくメンバーに入った私に気さくに話しかけてくれ、一緒に遊ぶうちに仲良くなることができました。

ここに集まっている子どもたちは年齢も性別も性格も様々だけれど、それに関係なくみんなが楽しんでいて、とても居心地の良い空間だと感じます。そして何より、たくさんの人とテーブルを囲んで同じ料理を食べられることが楽しいです。食事を取りながら学校での出来事を聞いたり、食べ物の好き嫌いの話を聞いたり、ささいなコミュニケーションを通してみんなのことが知ることができるからです。ダイニングに限らず、これからもっと多文化な環境に身を置くような時にも、まずはコミュニケーションをとって相手のことを知るの大切なのだと改めて実感しました。

そして、私が楽しく活動できているのはスタッフの皆さんのおかげです。緊張していた時も、マイペースでぼんやりしている時も、いつも温かく接してくださって本当に感謝しています。特に私は調理の面ではかなり未熟で、まだまだ戦力になっていません。これからも精進していこうと思いますので、よろしくお願いします。
(神戸大学 小山 瞳)

■■■ ハナの会 ■■■

◆夏祭り

大学の授業の一環で、約1か月間ハナの会でボランティアをさせていただいた関西学院大学人間福祉学部・社会福祉学科3回生の猪野毛ほのかです。8月21日から23日に行われた夏祭りに参加し、チマチョゴリを着て司会をさせていただきました。

気分を盛り上げるためにまずお昼ごはんを食べました。ちらし寿司、いなり寿司、蒸しブタ、チャプチェなどたくさんのごちそうが机の上に並んでいました。どれもとても美味しく利用者の方々も美味しそうに召し上がっていました。理事長の挨拶で夏祭りが開会し初めに南京玉すだれと皿回しが披露されました。実際に皿回しを体験しました。その後、スタッフの方々がひげダンスやフルーツキャッチを披露されました。とても盛り上がり、終始笑いが絶えませんでした。そしてスイカ割りを利用者の方々全員で行いました。スイカに命中させることに苦戦していらっしやいましたが、皆さん楽しんでいました。最後に、韓国民謡を歌って踊って楽しみました。利用者の方々の楽しんでいらっしやる顔を見ることが出来て良かったです。私自身もとても楽しむことが出来ました。

この1か月間、最初は文化や言葉の違いで戸惑うことも多かったのですが、利用者やスタッフの方々によくしていただいたおかげでたくさんのことを学ぶことが出来ました。ここで学んだことを今後の勉強に活かしていきたいです。(関西学院大学 猪野毛 ほのか)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

KFC帰国者新長田交流会でボランティアリーダーをしていただいている村井健司さんに帰国者のための共同墓地建設について書いていただきました。

◆共同墓地のために愛を捧げよう

兵庫県中国残留孤児を支援する会と弁護団の全面支援と協力を得て、兵庫県中国帰国者の会の努力の下、神戸市は、兵庫県に在住する中国残留孤児のために市営舞子霊園の墓地を無料で提供することを決めました。残留孤児の私たちが神戸市に重視されていることを十分証明できたと思

います。

周知のように、残留孤児は日中戦争で肉親と離れ離れになってしまい、私たち孤児は母国日本を思い続けてきましたが、日本の現代社会にとって大変特殊な存在でありました。70年あまりの苦難の年月を経て、今帰国者は晩年に差し掛かっているため、出来るだけ早く共同墓地を建てなければなりません。

しかし、今までの募金では記念碑の資金が足りません。帰国会や帰国者のみなさん、社会各界の友好団体や人々に協力を仰ぎ、ともに再び団結し助け合い、友愛の精神を発揮して、募金を呼びかけ、一日も早く共同墓地の記念碑完成のために頑張りましょう！宜しく願います。

(村井 健司)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

◆夏祭り

担当者を決めて会議を行う予定でしたが勤務日程が合わなかったり、アクシデントがあったりした中でバタバタ感満載の中、素案をまとめました。今まではスタッフが普段のユニホームから浴衣に着替えて“夏”を感じて頂いていましたが、今年は趣向を変えて『利用者さんに浴衣やチマチョゴリを着て頂こう』という事になりました。しかし、ここで問題が発生。浴衣を着せる事はできても、帯が結べないスタッフが続出。前日に数名のスタッフはYouTubeを見ながら特訓をしたとかしないとか。

利用者さんにはスタッフが持参した数枚の浴衣から自分で選んで頂き、唯一着付けの出来るスタッフが出勤しました。利用者さんの笑顔を見る限りでは喜んで頂けたのではないのでしょうか？

夏まつりと言えば焼きそばに焼き鳥、ビールと言いたいところではありますが、そこは介護施設（ノンアルコールでもよかったかもしれないけれど）炭酸飲料を含めたソフトドリンクで乾杯。各フロアの利用者さんたちが交じり合っ和気藹々とおしゃべりを楽しみ、吹き矢による的当てゲームやスーパーボールすくいに興じて昔を懐かしんでおられました。一番盛り上がったのが、スイカ割りです。ゲラゲラと大きな笑い声に悔しがる表情。見ている側も楽しめました。このスイカはもれなく食後のデザートにしたのですが、甘くて美味しかったです。

小規模は比較的年齢層の若い利用者さんが多いのですが、グループホームは開所7年目を迎え年齢層も高くなり（同時にスタッフも年を重ね）ADLの低下があり同じ建物内の移動とはいえ時間を要するようになりました。しかしイベントに参加する事で、フロア間や小規模とグループホームで交流が出来て、同時に異文化間の交流も図れるのです。それがKFCの良い所ではないでしょうか？

あと何回合同でのイベントを企画し実行できるのか判断が出来ませんが、建物から少し足を延ばした広場などで開催出来たとしたら、地域密着型施設ハナはここにある、とアピール出来るし、社会参加にも繋がると思っています。地域でのイベントが出来る事を願っていますので、ご協力をよろしくお願い致します。（星野 敬子）

■■■ 今後の予定 ■■■

■日本語プロジェクト研修会「どういうふうに支援をしているか」（日本語ボランティア対象）

9月25日(火) (火曜午前クラス) 12:00-13:30
9月27日(木) (木曜午前クラス) 12:30-14:30

■KFC・てんりん日本語教室「たのしく にほんご！」（神視保育園の保護者対象）

10月1日(月)から毎週月曜日(祝日除く)17:00-18:00 於 てんりん(神視保育園内)

■KFC帰国者新長田交流会

9月30日(日) 13:00-15:30 帰国者地域交流会 於 みなく〜る明舞

■デイサービスセンターハナの会

9月25日(火)~27日(木) 敬老会

■グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ
10月17日(水)、18日(木) 合同遠足 神戸どうぶつ王国